

# U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

**米国 原油・ガソリン価格の急騰により消費者マインド悪化** (05年9月ミシガン大消費者センチメント)

発表日：05年9月16日(金)

～9月の個人消費を抑制する要因に～

(No. UI - 109)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : [seiji@dri.dai-ichi-life.co.jp](mailto:seiji@dri.dai-ichi-life.co.jp))

## 消費者信頼感 (Consumer Confidence)

	消費者信頼感指数		消費者信頼感 (Consumer Confidence)						ミシガン大学消費マインド			
	期待指数	現状指数	雇用判断		半年後の景況感		半年以内の購入計画		期待	現状		
			充分	困難	良くなる	悪くなる	自動車	住宅				
04/08	98.7	97.3	100.7	18.4	26.0	20.2	8.8	6.5	3.9	95.9	88.2	107.9
04/09	96.7	97.7	95.3	16.6	28.0	21.6	9.4	6.3	3.9	94.2	88.0	103.7
04/10	92.9	92.2	94.0	17.4	27.9	20.7	10.5	7.6	3.6	91.7	83.8	104.0
04/11	92.6	90.2	96.3	17.1	28.0	20.3	11.4	4.6	2.6	92.8	85.2	104.7
04/12	102.7	100.7	105.7	19.4	26.4	22.4	7.7	6.6	3.5	97.1	90.9	106.7
05/01	105.1	100.4	112.1	21.0	24.3	22.0	7.8	7.2	3.5	95.5	85.7	110.9
05/02	104.4	96.1	116.8	21.1	22.4	17.9	7.8	7.2	4.1	94.1	84.4	109.2
05/03	103.0	93.7	117.0	21.8	23.8	19.3	8.2	5.7	3.8	92.6	82.8	108.0
05/04	97.5	86.7	113.8	20.4	22.9	17.7	9.9	5.8	4.1	87.7	77.0	104.4
05/05	103.1	93.4	117.8	22.9	24.1	19.0	9.5	7.8	3.5	86.9	75.3	104.9
05/06	106.2	96.4	120.8	22.5	22.5	19.5	9.0	6.6	3.6	96.0	85.0	113.2
05/07	103.6	93.2	119.3	22.9	23.8	17.9	9.5	7.6	3.8	96.5	85.5	113.5
05/08	105.6	93.7	123.6	23.5	23.2	18.7	9.7	6.3	3.4	89.1	76.9	108.2
05/09										76.9	63.6	97.7

(出所) The Conference Board, University of Michigan

(注) 「雇用判断」、「半年後の景況感」、「購入計画」の単位は%で、全体に占める割合を指す。

## 市場予想を上回る

### 12.2ポイントの低下

05年9月のミシガン大学消費者センチメント指数(速報値)は、76.9と前月から12.2ポイント低下し、市場予想の85.0を大幅に下回った。雇用・所得の拡大が続いているものの、ガソリン等エネルギー価格の上昇等によって2ヵ月連続の悪化となった。マインドの下落幅が大きいことから、9月の個人消費は停滞する可能性があるものの、今回のマインドの水準では個人消費が失速する可能性は小さい。

内訳は、現状指数が10.5ポイント、期待指数が17.3ポイントの低下となった。現状・期待が変化した要因をみると、現状判断は雇用・所得の拡大が持続しているもののガソリン価格が急上昇したことを背景に悪化したと考えられる。一方、期待指数は株価や景気が堅調に推移しているが、原油価格の急激な上昇によって景気の先行きに対する楽観的な見方が後退したと考えられる。

## 9月上旬の各種消費者マインド調査は悪化

9月の他の消費者マインド調査をみると、TIPP景気楽観指数(9月6日～11日調査)が50.9から41.2に低下、ABC/Walt Disney消費者信頼感指数は8月の平均の9.0から9月第1、2週平均で17.0と悪化した。このように、エネルギー価格上昇の影響で消費者マインド調査は軒並み悪化した。もっとも、消費者マインドに影響を与えた原油価格は足下で低下傾向を辿り、ガソリン価格も小幅低下に転じていることから、デイリーのマインド調査は改善に向かっており、既にマインドの悪化には歯止めがかかっているとみられる。

一方、マインド調査期間と同時期(9月第1、2週)の消費動向を示す統計をみる

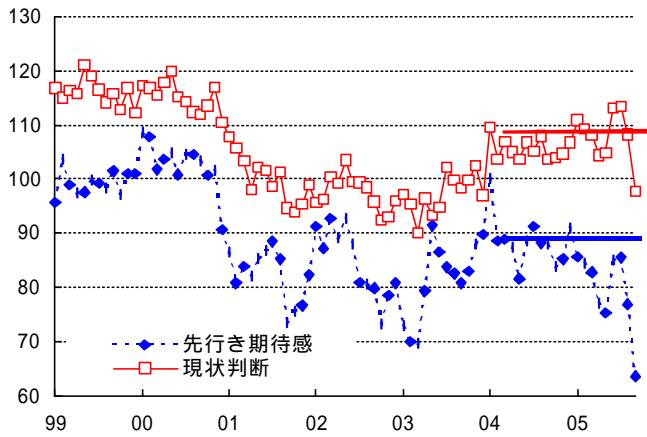
と、週間小売売上高はガソリン価格の高騰や、残暑に伴う秋物衣料の不振の影響を受けたものの、9月第1週が前週比横這い、第2週が同 0.2%と小幅減少にとどまっている。また、前年比では3%台後半の伸びを維持していることから、エネルギー価格の上昇にもかかわらず足下の個人消費は底堅く推移していると判断される。

### 今後マインドは改善 が予想される

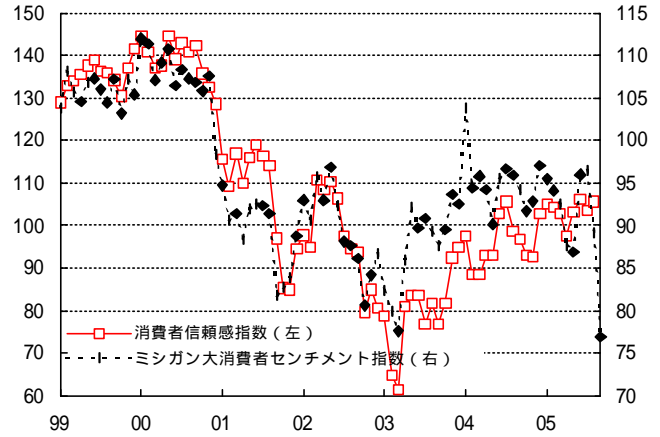
エネルギー価格に関しては、石油の精製能力が大幅に低下しているが、緩やかながらも施設の再開が続いていること、ガソリンに対する環境規制や輸入船籍規制を緩和したこと、加えてIEA加盟各国が原油・石油製品備蓄を放出することによって石油製品の供給が世界的に増加するためボトルネックに陥るリスクは低下している。今後、供給不足懸念を理由にエネルギー価格が上昇すれば、追加の備蓄放出が決定される可能性が高い。また、投機マネーの流入によってエネルギー価格が一段と上昇すれば景気の減速懸念が強まり上値は追い難いことから、当面、エネルギー価格の上昇には歯止めがかかると予想される。

エネルギー価格の上昇によって9月の個人消費が抑制されても、ブッシュ政権がハリケーンでの被害に対して積極的に補正予算を組んでいるため、景気は一時的な停滞にとどまり堅調さを維持する可能性が高い。最も被害の大きかったニューオーリンズでも9月末頃には市から水が引くとみられ復興需要が期待できる。このため、先行きの景気に対する不安感を強めた消費者も、再び楽観的な見方に向かうと予想され、マインドは今後改善すると見込まれる。

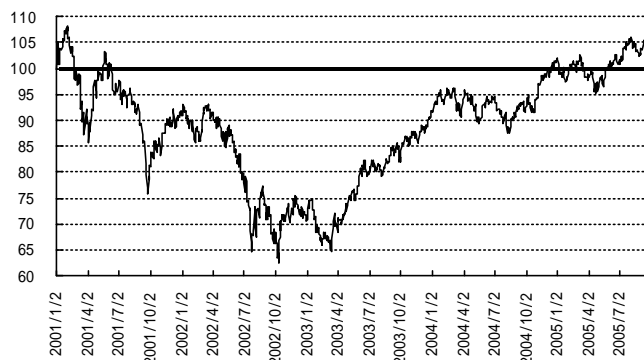
ミシガン大消費者センチメント指数の推移



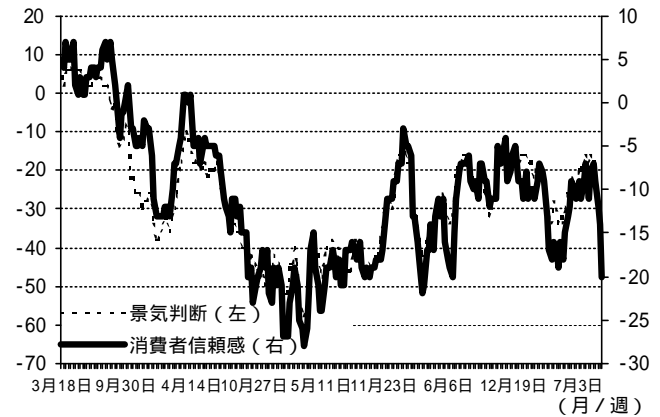
消費者マインドの動向



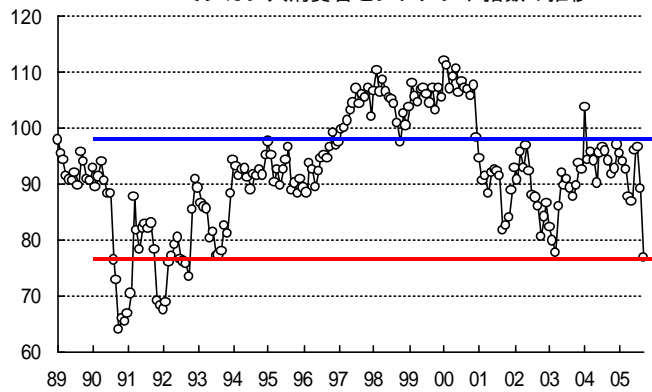
(01年1月2日=100) ウィルシャー5000の推移(2001年1月2日～2005年9月12日)



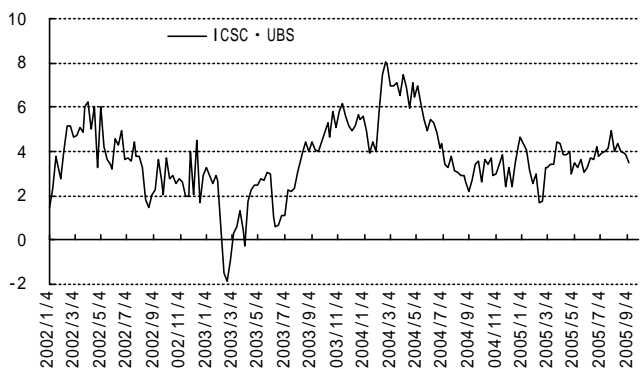
A B C / ワシントンポスト週次消費者信頼感指数構成項目の推移



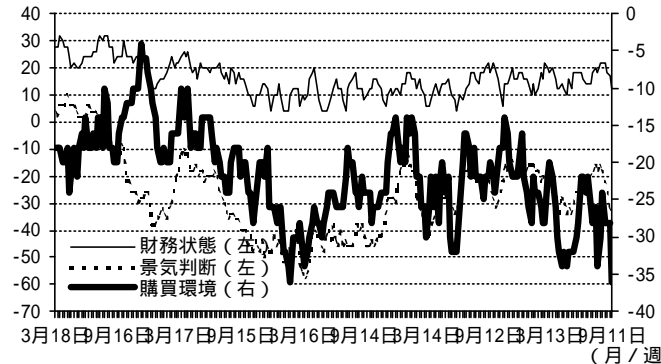
ミシガン大消費者センチメント指数の推移



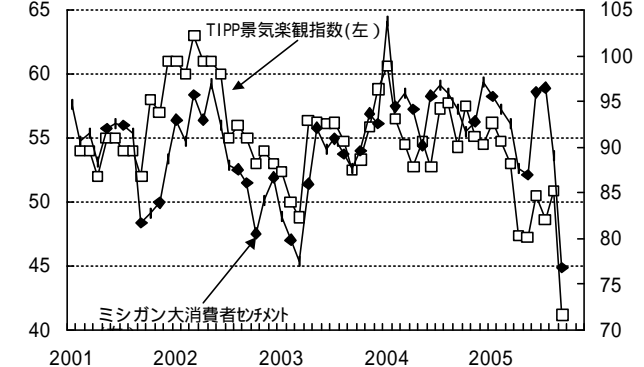
(%) 週間小売統計(前年同週比)



A B C / ワシントンポスト週次消費者信頼感指数構成項目の推移



消費者マインドの推移



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命いしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。